

生産性の向上、イノベーションの創出に向けて

平成 26 年 4 月 16 日
伊藤 元重
小林 喜光
佐々木 則夫
高橋 進

成長戦略で掲げた名目 3%、実質 2%の成長率目標の達成のためには、まずはデフレを脱却し景気を回復軌道に乗せることが重要。また、いわゆる六重苦については、解消に向けて対応がなされつつあるが、今後も法人税・エネルギー・資源・労働法制といった残された課題を克服することが重要。その上で、経済成長のためには、付加価値生産性の抜本的な向上、イノベーションの創出が不可欠である。

生産性上昇のカギは、産業構造転換促進、新陳代謝活発化、IT・知識資産の構築・利活用、グローバル化促進などを通じた競争力の強化、最適な資源配分の実現、付加価値の向上にある。特にサービス産業、中小企業における生産性向上が課題である。また、イノベーション創出を支える重要な要素は中長期の安定した投資である。中長期投資を促す環境整備やリスクマネー供給を含む産官学金の連携強化等の取組を加速する必要がある。産業構造の高次化の進行などの構造変化を踏まえながら、業種ごとの特性や抱える課題の違いに留意し、以下の課題に取り組むことが重要である。

(1) 産業構造転換・新事業創出に向けた課題

- 時代のニーズを反映した産業構造への転換、雇用の流動性確保
- 大胆な企業再編・M&Aの推進
 - ・進まない背景に、過剰雇用等の問題(硬直的な雇用慣行、賃金体系、セーフティネットの整備の遅れ)
- 税制措置の更なる活用

(2) 新陳代謝活発化に向けた課題

- 起業・開業の活発化、退出の円滑化、再チャレンジのための環境整備の促進。進まない背景として、
 - ・起業家精神やリーダーシップを促す教育の遅れ
 - ・起業家の立場に立っていない行政手続き
 - ・退出しづらい環境(個人と法人の資産の不明確化等)

(3) IT・知識資産の投資・利活用に向けた課題

- マーケティング力の強化
- ITの利活用
 - ・付加価値を高めるための活用(高次化)の遅れ
 - ・業種横断的事業への行政の対応の不足

(4)イノベーションの創出に向けたその他の課題

○「事業化の壁」の打破

- ・革新的な個々の技術が統合されて事業化にまでつながっていない(企業等の国内所有特許権の約5割、大学・公的研究機関等では7割が未利用)
- ・大学・公的研究機関が、産業界のニーズ・資金を取り込んでおらず、研究開発の効率が低い
- ・地方の官・学の研究機関を活用した地元中小企業との連携がなされていない

○イノベーション創出を支える中長期の安定した投資

- ・中長期投資を促す環境整備やリスクマネー供給を含む産官学金の連携強化等の取組を加速する必要がある(配布資料参照)。